

『日本書紀』だけが教える

ヤマト王権のはじまり

伊藤雅文(著)

扶桑社新書

令和元年五月一日発行

定価 980円(税別)

二〇二〇年に完成一三〇〇年を迎える『日本書紀』。その解明に向けて新しいアプローチ法で古代史の真実に迫ります。定説・通説を覆す新説・新解釈が満載の一冊です。

【主な内容】●『日本書紀』には『原日本紀※(げんにほんぎ)』が存在した ●倭の五王「讚」「珍」「済」「興」「武」を比定する ●神功皇后は卑弥呼および壹与をトレースして創造された ●武内宿禰像を再構築する ●「白鳥」がつかなく日本武尊と誉津別命(ほむつわけのみこと) ●「東征」はいつ、誰がしたのか ●継体天皇の二王朝並立説を考える ●古墳時代の三大金石文を解釈し直す(七支刀/隅田八幡神社人物画像鏡/稻荷山古墳金錯銘鉄剣)

※『原日本紀』は各天皇の治世に「無事績年(事績の記されない年)」のない編年体で記された文書であり、それに紀年延長操作を施すことにより『日本書紀』は完成したと考えられます。

